令和４年度「県立学校による地域との協働推進事業」**アンケート調査結果**

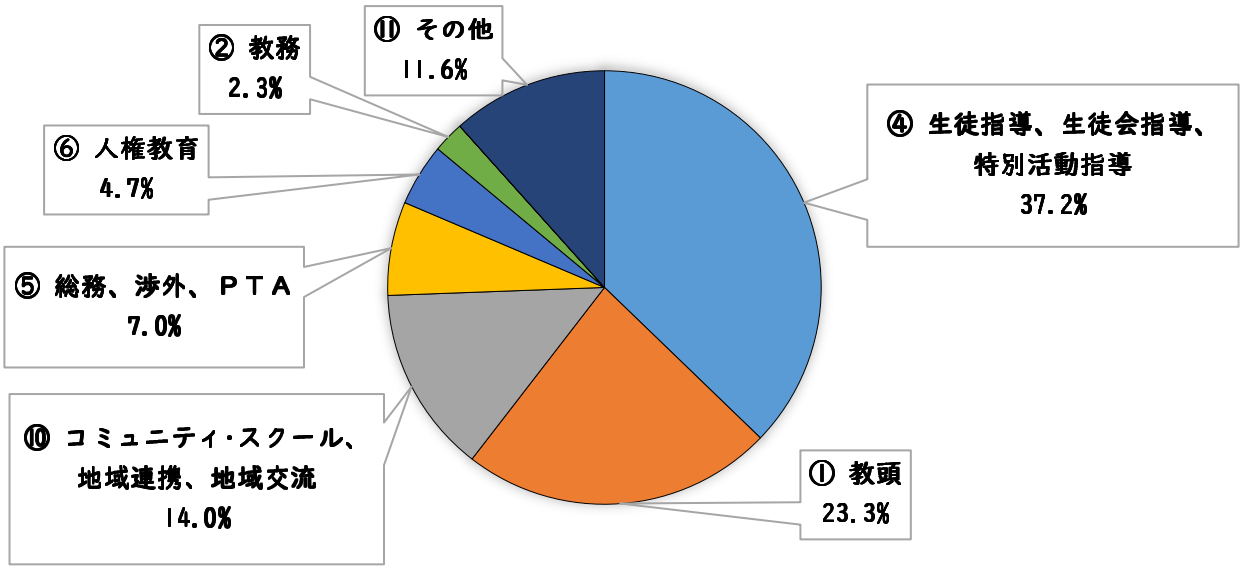
アンケート

以下の集約において、「（43校中）」に示す数値は、複数回答可の質問において、それぞれ該当する旨の回答をした学校の割合である。各項目の割合は、左が令和４年度、右が令和３年度の数値を表している。

１．　「本事業」の主担当者の役職･校務分掌等を１つ選択してください。

① 教頭	23.3%	20.5%
② 教務	2.3%	2.3%
③ 進路指導･キャリア教育	0.0%	0.0%
④ 生徒指導･生徒会指導･特別活動指導	37.2%	47.7%
⑤ 総務、渉外、ＰＴＡ	7.0%	2.3%
⑥ 人権教育	4.7%	6.8%
⑦ 図書、情報、文化	0.0%	0.0%
⑧ 保健体育	0.0%	0.0%
⑨ 環境整備、美化	0.0%	9.1%
⑩ コミュニティ･スクール、地域連携、地域交流	14.0%	9.1%
⑪ その他	11.6%	11.4%

主担当者のうち16名37.2%(昨年度 47.7%,-10.5%)が④生徒指導･生徒会指導･特別活動指導担当者である。①教頭は10名23.3%（昨年度20.5%,+2.8%）である。⑩コミュニティ･スクール、地域連携、地域交流担当者が６名14.0%（昨年度9.1%,+4.9%）であり、徐々に増加している。

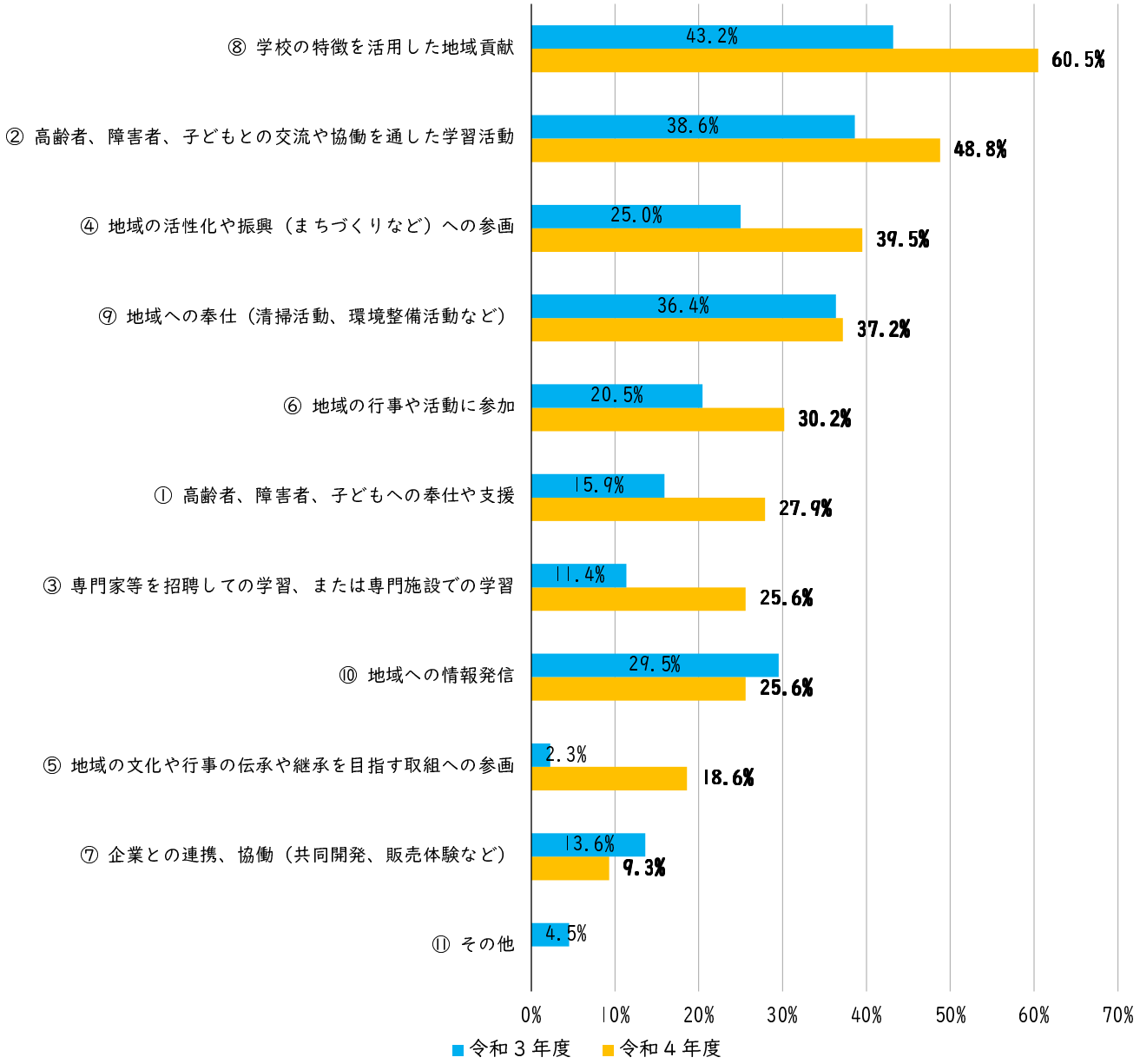


２．　「本事業」及び「地域と共にある学校づくり」全般（以降「全般」）において、どのような取組をしましたか。あてはまるもの全てを選択してください。

	本事業		全般	
① 高齢者、障害者、子どもへの奉仕や支援	27.9%	15.9%	37.2%	22.7%
② 高齢者、障害者、子どもとの交流や協働を通した学習活動	48.8%	38.6%	58.1%	47.7%
③ 専門家等を招聘しての学習、または専門施設での学習	25.6%	11.4%	34.9%	29.5%
④ 地域の活性化や振興（まちづくりなど）への参画	39.5%	25.0%	48.8%	34.1%
⑤ 地域の文化や行事の伝承や継承を目指す取組への参画	18.6%	2.3%	30.2%	6.8%
⑥ 地域の行事や活動に参加	30.2%	20.5%	53.5%	36.4%
⑦ 企業との連携、協働（共同開発、販売体験など）	9.3%	13.6%	23.3%	15.9%
⑧ 学校の特徴を活用した地域貢献	60.5%	43.2%	76.7%	50.0%
⑨ 地域への奉仕（清掃活動、環境整備活動など）	37.2%	36.4%	60.5%	63.6%
⑩ 地域への情報発信	25.6%	29.5%	32.6%	38.6%
⑪ その他	0.0%	4.5%	0.0%	11.4%
	(43校中)		(43校中)	

⑧学校の特徴を活用した地域貢献の割合が60.5%、②高齢者・障害者・子どもとの交流や協働を通した学習活動が48.8%、④地域の活性化や振興（まちづくりなど）への参画が39.5%という順に高い値になっている。⑦企業との連携、協働（共同開発、販売体験など）と⑩地域への情報発信以外の数値は、現状維持または増加していることから、コロナ禍においても各学校で活動方法を工夫することで、地域と連携、協働した様々な活動が行われていることがうかがえる。

また、③専門家を招聘しての学習、または専門施設での学習の数値が25.6%で、昨年度よりも２倍以上に増加しているが、まだ高い数値であるとは言えない。地域人材や施設などの地域における教育資源を活用した教育活動をさらに充実させることが、「社会に開かれた教育課程」の実現につながります。



３．　「本事業」及び「全般」の取組は、年間、のべ何日活動を実施しましたか。

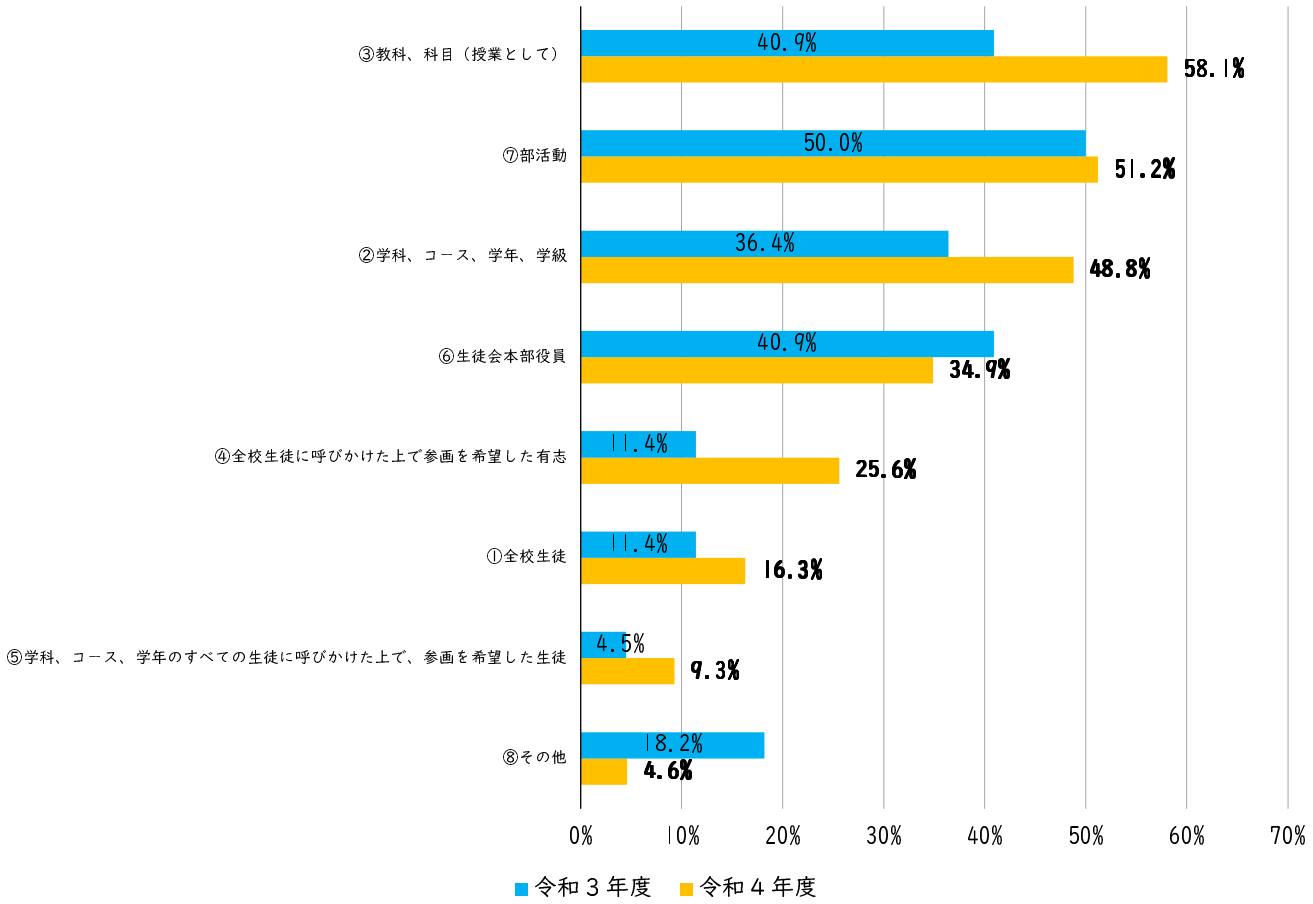
	合計	平均
本事業	2,815日(昨年度1,773)	65.4日(昨年度41.2)
全般	3,652日(昨年度2,353)	84.9日(昨年度53.4)

4.　「本事業」及び「全般」の取組に関わっている生徒の立場は、次のどれに当たりますか。あてはまるものを全て選択してください。

	本事業		全般	
① 全校生徒	16.3%	11.4%	25.6%	18.2%
② 学科、コース、学年、学級	48.8%	36.4%	58.1%	47.7%
③ 教科、科目（授業として）	58.1%	40.9%	58.1%	52.3%
④ 全校生徒に呼びかけた上で参画を希望した生徒	25.6%	11.4%	30.2%	27.3%
⑤ 学科、コース、学年すべての生徒に呼びかけた上で、参画を希望した生徒	9.3%	4.5%	20.9%	11.4%
⑥ 生徒会本部役員	34.9%	40.9%	55.8%	54.5%
⑦ 部活動	51.2%	50.0%	58.1%	52.3%
⑧ その他	4.6%	18.2%	6.9%	15.9%
	（43 校中）		（43 校中）	

③教科、科目（授業として）58.1%、⑥部活動 51.2%、②学科、コース、学年、学級 48.8%であり、高い数値になっている。昨年度と比較し、①全校生徒は 16.3%（昨年度 11.4%,+4.9%）、②学科、コース、学年、学級は 48.8%（昨年度 36.4%,+12.4%）、③教科、科目（授業として）は 58.1%（昨年度 40.9%,+17.2%）と増加している。

本事業における取組を「教育課程の一環」として位置付け、「社会に開かれた教育課程」を実現するために活用していくことを考えてほしい。



5.　「本事業」及び「全般」の取組に関わった生徒数を、「のべ人数」でお答えください。

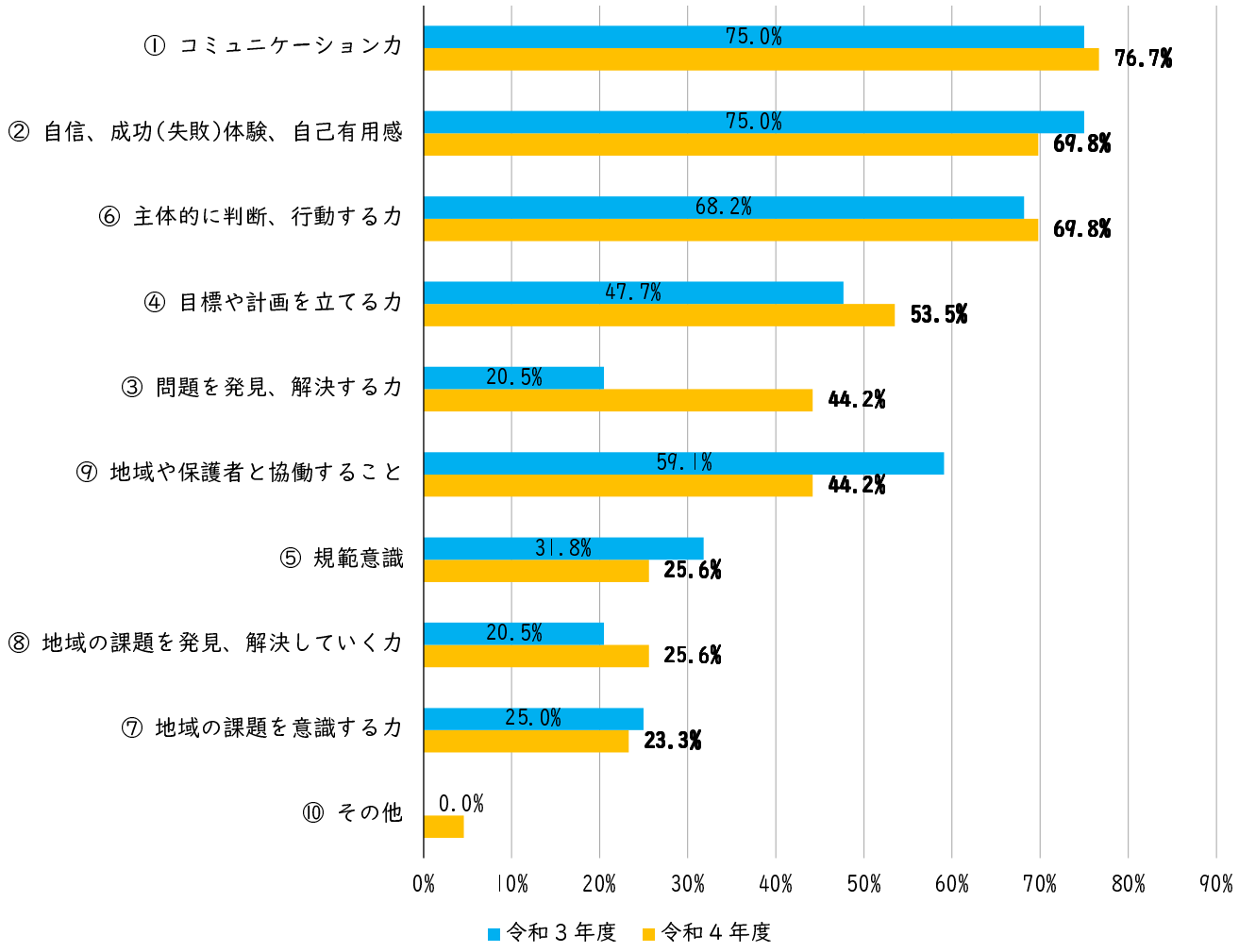
	合計	平均
本事業	10,014 人(昨年度 10,649)	232.8 人(昨年度 242.0)
全般	15,305 人(昨年度 15,540)	355.9 人(昨年度 353.1)

6．　「本事業」及び「全般」の取組を通して、生徒にどのような力や意識が身に付くことを期待しましたか。あてはまるものを全て選択してください。

	本事業		全般
① コミュニケーション力	76.7%	75.0%	86.0%
② 自身、成功(失敗)体験、自己有用感	69.8%	75.0%	76.7%
③ 問題を発見、解決する力	44.2%	20.5%	55.8%
④ 目標や計画を立てる力	53.5%	47.7%	55.8%
⑤ 規範意識	25.6%	31.8%	32.6%
⑥ 主体的に判断、行動する力	69.8%	68.2%	83.7%
⑦ 地域の課題を意識する力	23.3%	25.0%	41.9%
⑧ 地域の課題を発見、解決していく力	25.6%	20.5%	34.9%
⑨ 地域や保護者と協働すること	44.2%	59.1%	60.5%
⑩ その他	4.6%	0.0%	2.3%

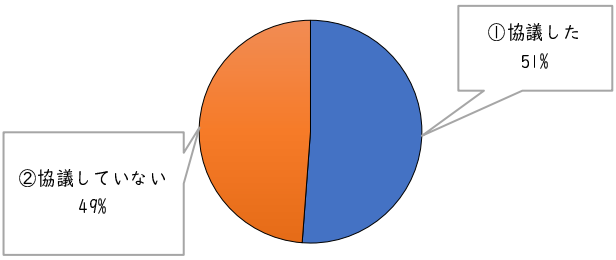
(43校中)

①コミュニケーション力が76.7%、⑥主体的に判断、行動する力が69.8%、②自信、成功(失敗)体験、自己有用感が69.8%となっており、多くの学校が目標（ねらい）として挙げている。
④目標や計画を立てる力については、53.5%（昨年度47.7%,+5.8%）と増加している。また、③問題を発見、解決する力は、44.2%（昨年度20.5%,+23.7%）と増加している。生徒が計画段階から参画し、問題発見から解決までを生徒自身が主体的に行う力を育成することを目標としてかかげた学校が増加している。
一方で、⑦地域の課題を意識する力は23.3%、⑧地域の課題を発見、解決していく力は25.6%と低い値になっている。生徒に地域の課題にも目を向けさせ、地域の方々と協働し、「学校を核にした地域づくり」の視点を生徒が意識し、考える取組を展開することも大切にしてほしい。



7．　「本事業」の取組を行うにあたり、その内容（生徒の教育課題や身に付けさせたい力も含めて）を学校運営協議会において協議しましたか。

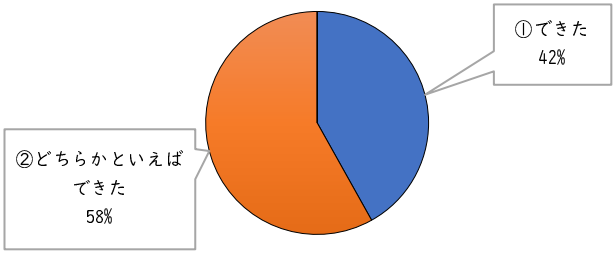
① 協議した	51.2%
② 協議していない	48.8%



学校運営協議会において共有された「育てたい生徒像」を達成するために、本事業の取組をどのように行っていくのかについて、学校運営協議会で協議し、「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進」を進めてほしい。

8．　「本事業」及び「全般」をとおして、6．の力や意識を身に付けさせることができましたか。

	本事業	全般
① できた	41.9%	39.5%
② どちらかといえばできた	58.1%	60.5%
③ どちらかといえばできなかった	0.0%	0.0%
④ できなかった	0.0%	0.0%



①できた(41.9%)、②どちらかといえばできた(58.1%)であり、全ての県立学校が生徒に身に付けさせたい力や意識を身に付けさせることができたと回答している。

生徒に身に付けさせたい力や意識に迫ることのできる取組になっていたかどうかについて、年度末に点検し、次年度の取組の改善につなげていくこと、また、学校運営協議会においても評価し、改善につなげてほしい。

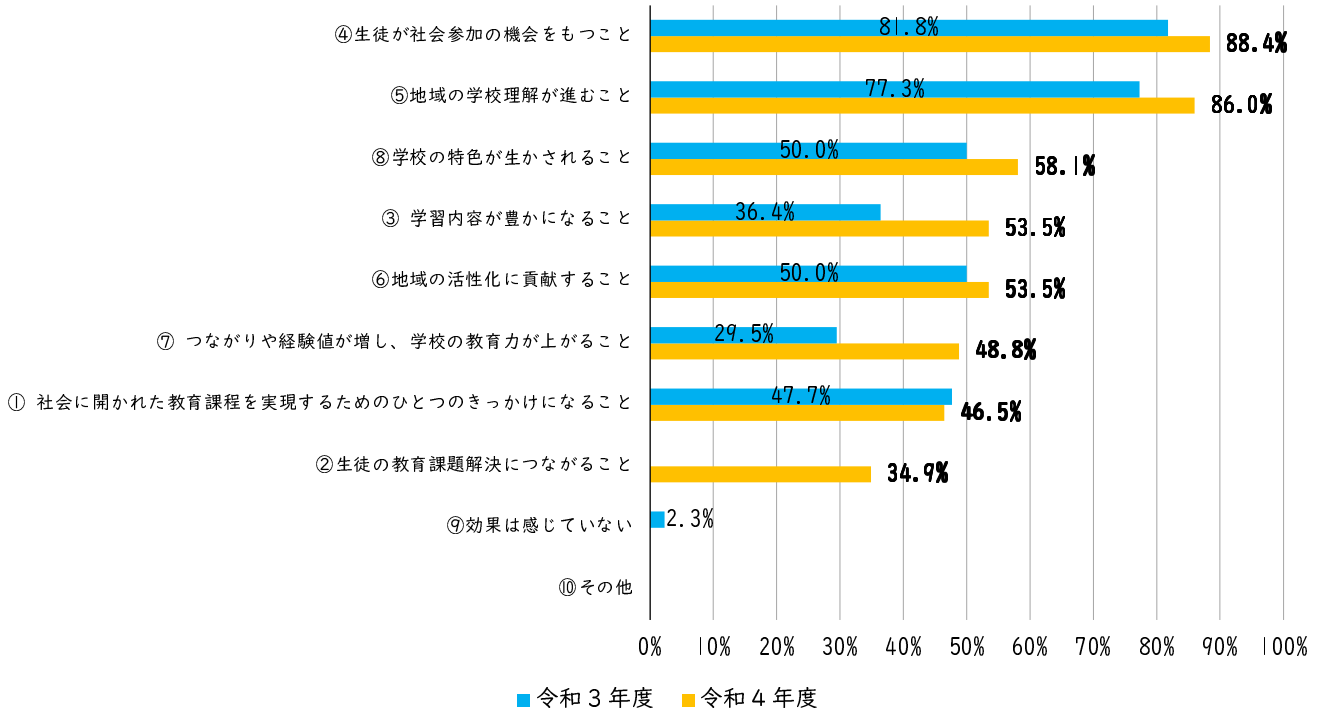
9．　「本事業」を実施したことによる、学校及び生徒への効果は何であると思いますか。あてはまるものを全て選択してください。

① 社会に開かれた教育課程を実現するためのひとつのきっかけになること	46.5%	47.7%
② 生徒の教育課題解決につながること	34.9%	
③ 学習内容が豊かになること	53.5%	36.4%
④ 生徒が社会参加の機会をもつこと	88.4%	81.8%
⑤ 地域の学校理解が進むこと	86.0%	77.3%
⑥ 地域の活性化に貢献すること	53.5%	50.0%
⑦ 職員のつながりや経験値が増し、学校の教育力が上がること	48.8%	29.5%
⑧ 学校の特色が生かされること	58.1%	50.0%
⑨ 効果は感じていない	0.0%	2.3%
⑩ その他	0.0%	0.0%

(43校中)

多くの学校が、④生徒が社会参加の機会をもつこと、⑤地域の学校理解が進むこと、をやりがいと捉えている。また、①社会に開かれた教育課程を実現するためのひとつのきっかけになることが46.5%と約半数となっている。

今後一層、新学習指導要領の前文に掲げられている「社会に開かれた教育課程」実現につながるような、教育課程に関連付けた取組の展開、また、学校運営協議会で共有された生徒の教育課題解決につながる取組の展開を進めてほしい。そのためにも、本事業の取組を学校運営協議会で協議し、活動内容をブラッシュアップしていくことを重視してほしい。

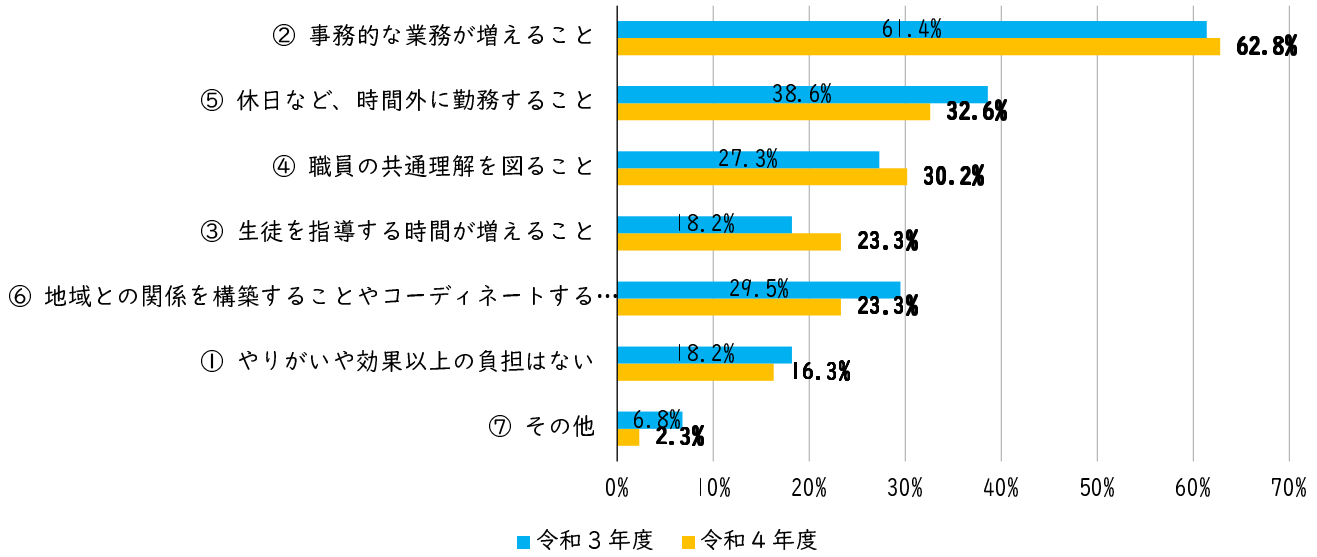


１０．　「本事業」のやりがいや効果以上の負担があるとすれば、それは何であると思いますか。あてはまるものを全て選択してください。

①　やりがいや効果以上の負担はない	16.3%	18.2%
②　事務的な業務が増えること	62.8%	61.4%
③　生徒を指導する時間が増えること	23.3%	18.2%
④　職員の共通理解を図ること	30.2%	27.3%
⑤　休日など、時間外に勤務すること	32.6%	38.6%
⑥　地域との関係構築（維持）やコーディネート	23.3%	29.5%
⑦　その他	2.3%	6.8%

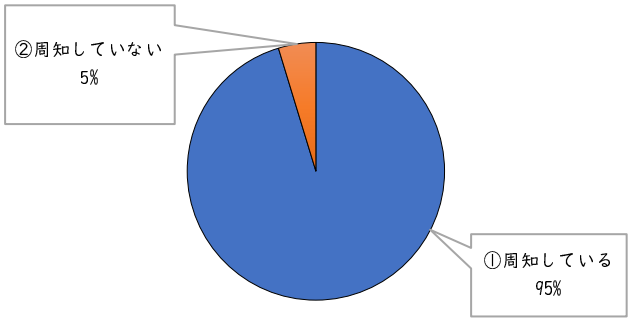
(43校中)

②事務的な業務が増えること及び⑤休日など、時間外に勤務することなどについては、他の項目に比べて高い割合になっている。
一部の担当者だけに過度の負担がかからないように、教職員間の連携・共通理解等をとおして、負担の軽減または解消を図る必要がある。また、本事業に係るコーディネートを地域学校協働活動推進員等に担ってもらえるように、各学校で選定してほしい。



１１．　「本事業」について職員に周知していますか。

① 周知している	95.3%
② 周知していない	4.7%



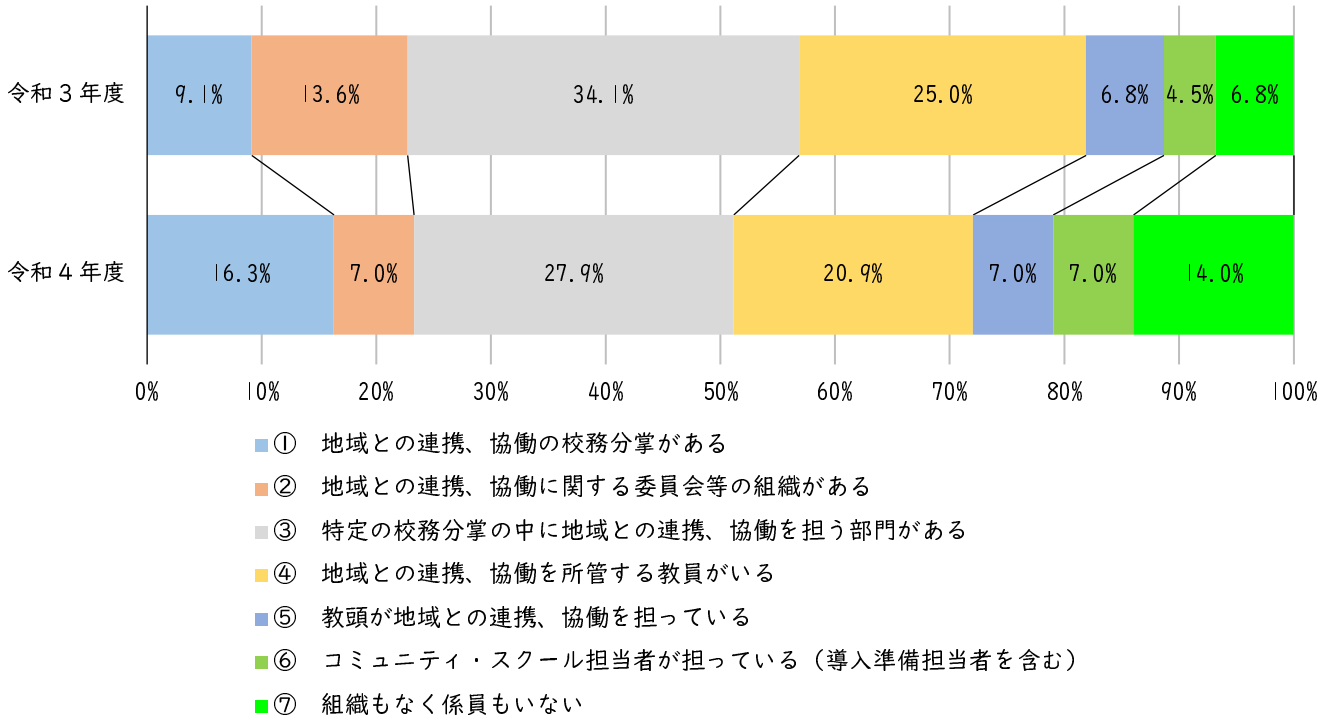
95.5%の学校で、本事業を職員に周知した上で実施している。今後も本事業における取組を進めるに当たっては、教職員で共通理解の上で、様々な視点から取組を見直したり組み立てたりすることで、学校や生徒の実情に合った活動を展開してほしい。

１２．　「地域と共にある学校づくり」を担当する組織は、校内組織に位置付けられていますか。あてはまるものを１つ選択してください。

① 地域との連携、協働の校務分掌がある	16.3%	9.1%
② 地域との連携、協働に関する委員会等の組織がある	7.0%	13.6%
③ 特定の校務分掌の中に地域との連携、協働を担う部門がある	27.9%	34.1%
④ 地域との連携、協働を所掌する教員がいる	20.9%	25.0%
⑤ 教頭が地域との連携、協働を担っている	7.0%	6.8%
⑥ コミュニティ・スクール担当者が担っている（導入準備担当を含む）	7.0%	4.5%
⑦ 組織もなく係員もいない	14.0%	6.8%

地域との連携・協働を所掌する①校務分掌や②委員会等や③部門など、地域との連携、協働を組織に位置づけている学校は 51.2%であり、昨年度より少し低くなっている。コミュニティ・スクール担当者が担っている割合は 7.0%と、昨年度より増加している。⑦組織はなく係員もいないとする学校が 14.0%（昨年度 6.8%,+7.2%）と増加している。

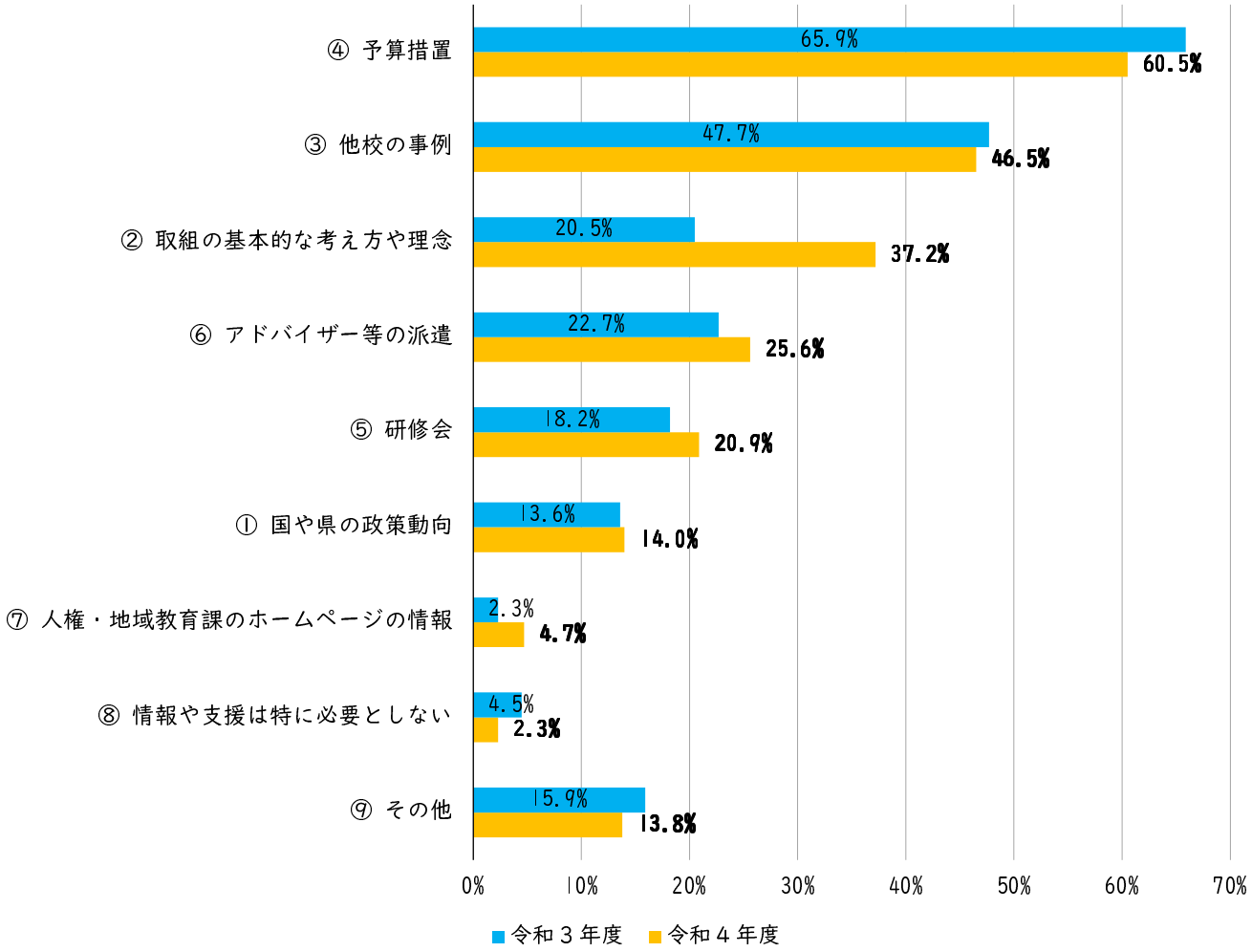
組織的・継続的な取組を実現していくためには、地域との連携、協働を組織に位置付けること、または、コミュニティ・スクール担当者が本事業を担い、学校運営協議会において共有された「育てたい生徒像」、「目指す学校像」実現のための取組を、本事業の取組に落とし込んで進めていくことを推奨したい。



１３．　貴校における「地域と共にある学校づくり」を一層推進するために必要とする情報や支援は何であると考えますか。あてはまるもの全てを選択してください。

① 国や県の政策動向	13.6%	13.6%
② 取組の基本的な考え方や理念	36.4%	20.5%
③ 他校の事例	47.7%	47.7%
④ 予算措置	59.1%	65.9%
⑤ 研修会	20.5%	18.2%
⑥ アドバイザー等の派遣	25.0%	22.7%
⑦ 人権・地域教育課のホームページ情報	4.5%	2.3%
⑧ 情報や支援は特に必要としない	2.3%	4.5%
⑨ その他	13.8%	15.9%

(43校中)



：本事業に参加･参画した感想を書いてください。【抜粋】

様々な立場や年齢の人との交流で、人の話を聞いたり、人前で話したりする力がついた。就職先でのコミュニケーションの取り方、何かを企画する時の計画立案、仕事の進め方などに生かしていきたい。
小学生に対して分かりやすい言葉で対応することを第一に、交流を楽しむことを心がけた。その時々の臨機応変な言葉選びが難しく、自分には相手に合わせて適切に対応する力がまだ少し足りないように感じた。
栽培は大変でしたが、子どもたちの笑顔を見ることができて良かった。子どもたちの様子を目の当たりにし、保育士になるという強い思いをもつことができた。
クリスマス会に参加して、子どもたちの様子だけでなく、保護者の方が子どもたちとどのように関わっておられるのかを知ることができた。普段の学校生活だけでは感じることができない経験ができた。
準備や運営を部員だけで行うことに不安があったが、地域の指導者の方々に助けていただき、無事に「朱雀カップ」を終えることができた。小学生から「教えてください。」などの声をかけられ、高校生ラガーマンとしての自覚をもつきっかけとなった。地域の小学生や指導者との交流を深めることができ、大切な経験をすることができた。
がん治療をしている患者さんの気持ちが、少しでも楽になるようにと願ってケア帽子を作り、病院へ寄贈した。地域に貢献できる取組ができて嬉しかった。今後も自分ができるボランティア活動を続けていきたい。
中学校時代はボランティア活動に積極的ではなかったが、高校でいろいろなボランティア活動に参加して、その楽しさを知ったり、社会や地域の役に立っているという実感を得たりすることができた。高校を卒業してからも、いろいろな活動に参加したいと考えている。
子どもに関わる仕事に興味があり、保育実践の授業を受講した。実習では、先生方からアドバイスや指摘をいただいて、話し方・興味の引きつけ方・目線の合わせ方など、色々教わった。子どもへの関わり方を学べただけでなく、「自分はやはりこの道に進みたい」という思いを再認識することができたのが一番の成果であった。大学でも高校での保育実践の授業で学んだことを忘れずに生かしていきたい。
シトラスリボンプロジェクトを通して、自分の通っている学校や地域を良くしたいという意識が高まった。募金をはじめ、ボランティア活動など、地域社会に何か貢献できるようなことに取り組んでいきたい。
農業クラブ活動として取り組んだ。ものづくりを通してたくさんの方と出会い、笑顔と感謝を頂いたことは、私自身を大きく変えるきっかけとなった。
昨年度、実行委員の先輩方と一緒に参加し、様々なことを学んだ。その経験を後輩たちに伝えたいと考え、今年度も参加した。この取組を通して、主体的に行動する力やコミュニケーション能力が身に付いた。今後も地域の方と関わりながら、地域貢献になるような取組を行い、そこで得た経験を将来の進路に生かしていきたい。
今回の交流を通じて、小さな子どもたちがかわいいのはもちろんのこと、ボウリングや質問などを全力でしてくれたことがとてもうれしかった。また、一人の女の子が質問で言葉を詰まらせてしまった時、幼稚園の先生がすぐに横に行き、私たちでは聞き取れなかった言葉を理解し、子どもたちが伝えやすいよう

にフォローしていた様子が印象的で、自分自身の学びにつながった。今回の学びを生かして、これから子どもたちに接するときは、同じ目線で優しく接することを心がけたい。
郡山城近くに住んでいた頃に、お花見などで郡山城を何度か訪れたことがあった。そのようなこともあって、身近に感じていた郡山城が、筒井順慶とどのような関係があるのかを知りたいと思い、この取組に参加した。 筒井順慶顕彰会の方の講演を聞き、順慶まつりに参加したことで、筒井順慶について深く知ることができた。また、スタンプラリーのスタンプ係として、地域の方と交流ができ、貴重な体験ができた。
事前の打ち合わせから、運営に携わったからこそ、普段から支えていただいている方々の有難みを改めて認識することができた。また、普段とは違う発表をする機会をいただき、練習段階から、いつも以上に緊張感をもって取り組むことができた。一人一人の音作りや音楽に向かう姿勢を養う時間にもなった。
クリスマスリース作りでは、案内ポスター作りや司会などを担当した。イベントを通して子どもたちとの触れ合い方を学ぶことができた。来年は今年の経験を踏まえて、もっとこのイベントを良いものにしたい。自分が小学生の時に、綿から糸を紡ぎコースター作りをする五條高校のイベントに参加したことがあるので、そういったこともやってみたい。
国際英語科に所属しているため、地域の英語交流活動に参加した。教えることの大変さとともに、児童とのコミュニケーションの取り方や関わり方について学べる大変貴重な時間となった。引き続き、このような機会があれば積極的に参加して、自分を高めていきたい。
部局たまつえでの活動を通して、コミュニケーション力が向上し、誰とでも話せるようになった。考えて行動することができるようにもなり、協調性も身に付いた。今後就職や進学の時に、この経験を生かしていきたい。
新型コロナウイルスの影響により限定した方ではあるが、地域の方、並びに本校の保護者の方に本校の活動や地域での学校の活動を見ていただけたことが何より嬉しかった。普段の感謝の気持ちを伝えられた発表になった。
生徒会執行部の一員として地域清掃に参加した。普段は気付いてなかったが、いざ活動してみると多くのゴミが落ちていることを実感した。普段見えていない課題があることに気付かされた。今後は部活動参加生徒だけでなく、広く全校生徒に参加を募り、全校共通の課題として取り組んでいきたい。そのために生徒への周知をより工夫したい。
地域の方との情報交換の場になっている。自分が住んでいる地域にどんな場所があるか興味をもった。
地域の人や学年を越えた生徒同士が協力して取り組むことができた。コロナ禍でも「青翔一丸」となって、みんなで乗り越えていきたい。
取組を通して文章を考える力や、植物を育てようとする意識、写真を撮って植物を観察する力が身についた。今後は、中学部や他学部のみんなでいちご狩りをしたい。できれば、いちごを給食に出してほしい。